

じゆぎょう
授業とは

2024/7/16

No.27

岩瀬和信



先生たちの「初心を語る会 その2」。途中で席替えして、計2ラウンドの4人対話を行いました。

今回のテーマは、「本校の授業で大切にすべきこと」。今日は、「学園の建学の精神」「本校の学校教育目標」それに「ユネスコスクールのユネスコ憲章」を土台として、本校の授業で大切にすべきことを考えました。

(A先生の振り返りシートより)

授業は楽しいもの、わかるものでなくてはいけないものだと思っています。

それは、学校生活のほとんどを授業が占めるからです。

湘南学園は、先生たちが自由に教材を選び、教員を作って授業をしています。

そのときに大事なのは、①目の前の子どもが何に興味があるのか、そして、②先生は何を教えるべきか、ということだと思っています。それがうまくいった時、楽しくわかる授業になるのだと思います。

教師は①を受けとり、②を与えます。その①と②がうまく合ったとき、楽しくわかる授業になる。

①は子どもたちの生活の中から出てくる好奇心です。

②は、子どもたちが生きていく世界を見据え、必要になる学習。

教育者東井義雄の学習観でいえば、①が生活の論理に、②が教科の論理につながる授業動機です。①では子どもたちに対して受ノ心を働かせ、②では世界に対して受ノ心を働かせます。

授業では、みんながお互いの①を受けとりあって、②につなげていく。そこに教師のファシリテートが機能します。

授業での追求の深まりや、このときの子どもや教師の状態は、彼らが直接語っていることだけでなく、むしろ、彼らの語りの調子や響き、余韻や沈黙に現れるのである。

(田端健人)